平成30年度　大田区立松仙小学校　自己評価　報告書

平成31年2月25日

○　本校の概要

☆　開校65周年目、児童数819名、25学級。地域からは落ち着いた学校として一定程度の評価を得ている。
☆　学級担任26名中、新規採用2名、教員全体の平均年齢は39歳で、20代30代の経験の浅い教員が約6割をしめており、校内において教師としての基礎・基本の徹底及び教師としての資質・能力の育成が課題である。
☆　「健康・安全・人権」を学校教育の基盤とし、「挨拶・運動・笑顔・思いやり」を大切にする児童の育成を図る。
☆　本年度の校内研究は，昨年度に引き続き、「楽しい学校の創造～生活・総合の楽しい授業の創造～」をテーマとし，生活科・総合的な学習の時間での主体的な学びの実践を通して学びに向かう力の育成を図っていく。
☆　多様な人間関係を築く機会と場を保証するために，毎年，全学年学級編成替えを実施し，フランクリン・コビィー・ジャパン社との連携により「リーダー・イン・ミー」の考えを基に新しい自分の可能性を追求し，自尊感情を高めるような取組をする。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 単元の見通しや毎時間の学習の具体的なめあてや授業の流れを子供に明示する。	4：全児童対象学校生活に関するアンケート「授業中，勉強がよく分かる」項目において、「よく分かる」との回答55%以上 3：全児童対象学校生活に関するアンケート「授業中，勉強がよく分かる」項目において、「よく分かる」との回答45%以上55%未満 2：全児童対象学校生活に関するアンケート「授業中，勉強がよく分かる」項目において、「よく分かる」との回答35%以上45%未満 1：全児童対象学校生活に関するアンケート「授業中，勉強がよく分かる」項目において、「よく分かる」との回答35%未満	3	○　「学習カルテ」と「算数ステップ学習チェックシート」の活用頻度が少なかった。 ○　学習指導講師を活用し、3年生以上の算数の補習を128日間、放課後に行った。さらに、土曜日に2時間の補習教室を、年間6回行った。 ◎　大田区学習効果測定の結果から「学習カルテ」を作成し、学期に1回は面談を行う。 ◎　「算数ステップ学習チェックシート」による学習の定着を学期末に保護者に知らせ、家庭との連携を図る。	・児童アンケートと保護者アンケート共に、「授業中の勉強がわかる。」、また「わかりやすい授業を受けている。」が90%を超えている。「あまりわからない。」及び「わからない。」が3%から5%で、この児童をいかに引き上げていくかが今後の課題である。 ・チェックシートの活用頻度が低い理由は何か知ることが必要であると考える。活用方法がわかれば、頻度は向上すると思う。しかし、どのようにしたら効果が上がるのかを考えないと、新しい方策を打ち出すことが仕事になってしまうと思う。 ・教員のやるべきことが多すぎるのではないか。目標を定め、意識を高くもつのは良いと思うが、教員に余裕がない。課題を減らし、児童一人一人に目を向ける時間を増やす方が優先ではないかと思う。
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 毎週の生活指導夕会及び定期的な特別支援委員会及び効果的な支援支援を行うための職員会議等を通して，組織的に児童理解を深める取組を実施する。	4：保護者向け学校評価アンケート「学校は，子供一人一人を大切にした指導を行っている」項目において、「はい」の回答48%以上 3：保護者向け学校評価アンケート「学校は，子供一人一人を大切にした指導を行っている」項目において、「はい」の回答38%以上48%未満 2：保護者向け学校評価アンケート「学校は，子供一人一人を大切にした指導を行っている」項目において、「はい」の回答28%以上38%未満 1：保護者向け学校評価アンケート「学校は，子供一人一人を大切にした指導を行っている」項目において、「はい」の回答28%未満	3	○　6月と10月の「子どもの心サポート月間」には、1～3年生は学校独自の、4～6年生は大田区のアンケートをとり、担任との面談を行い、いじめの未然防止に役立てた。 ◎　時期や期間には関係なく、必要と思われる児童や保護者には、スクールカウンセラーの活用を図る。	・学校公開や各行事等で教育活動を十分公開し、保護者からのアンケート結果も高い評価を得ている。今後も引き続き継続してほしい。子供たちも、元気で明るい挨拶ができている。 ・できる子できない子がいると思うので、外部からのサポートがあってほしい。 ・多くの面で悩みを抱えている保護者は増えていると思う。大いに外部のカウンセラーなどの導入をしたらいいと思う。先生方だけでは対応に大変だと思う。 ・先生方が忙しいなかで対応等をしていることを、保護者にも理解していただけると良い。 ・子供たちからは暗いイメージは感じない。厳しさと優しさの割合が違う気がする。もう少し子供たちに厳しくてもいいのではないかと思う。 ・子供たちの困りごとに対して、担任だけでなく学年から学校全体でシェアされ、丁寧に対応していると思う。
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 体育の授業におけるめあての掲示・学習の流れの掲示・学習カードや振り返り活動などの取組を通して、目標をもって体を動かすことの楽しさを子供が実感できるようにする。	4：保護者向け学校評価アンケート「学校は、体育指導・給食指導・保健指導等で，健康教育・体力向上に努めている」項目において、「はい」の回答62%以上 3：保護者向け学校評価アンケート「学校は、体育指導・給食指導・保健指導等で，健康教育・体力向上に努めている」項目において、「はい」の回答52%以上62%未満 2：保護者向け学校評価アンケート「学校は、体育指導・給食指導・保健指導等で，健康教育・体力向上に努めている」項目において、「はい」の回答42%以上52%未満 1：保護者向け学校評価アンケート「学校は、体育指導・給食指導・保健指導等で，健康教育・体力向上に努めている」項目において、「はい」の回答42%未満	3	○　「一校一取組」として、「長縄チャレンジデー」と「短縄ぴょんぴょんデー」を行ったが、場所の狭さや天候に左右される場面があった。 ◎　体力向上プログラムを基にし、一校一取組や一学級一実践を実施する。体育指導補助員や体育行事委員会が中心となって体力向上に努める。	・今は走る投げる跳ぶ等、基本的なことが苦手な子供たちが多いなか、学校は体力向上に工夫をしている。 ・子供の体力向上には、外部からの協力が必要だと思う。先生たちだけで行うのは、時間的にも厳しいのではないかと思う。 ・家庭での生活等の大切さを感じる。 ・授業だけでなく20分休みなどで、先生たちには子供と遊んで欲しい。外で先生と遊ぶことで、子供たちが先生から学ぶこともあるのではないかと思う。
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 授業観察時の指導略案の配布や「授業やります！」コーナー等を活用し、日常的に自主的に授業公開し、互いに授業を見合い、自主授業協議会において授業を批正し合い、主体的に授業力を高めようとする取組をする。	4：保護者向け学校評価アンケート「子供は分かりやすい授業・楽しい授業を受けている」項目において、「はい」の回答59%以上 3：保護者向け学校評価アンケート「子供は分かりやすい授業・楽しい授業を受けている」項目において、「はい」の回答49%以上59%未満 2：保護者向け学校評価アンケート「子供は分かりやすい授業・楽しい授業を受けている」項目において、「はい」の回答39%以上49%未満 1：保護者向け学校評価アンケート「子供は分かりやすい授業・楽しい授業を受けている」項目において、「はい」の回答39%未満	3	○　管理職による授業観察時に学習指導案を全教員に配布し、授業を見合う姿勢を大切にしたが、校内事情により授業を見に行けないこともあった。 ◎　若手教員の研修の場として、定期的なミニ研修会を通して校内OJTを推進し、組織的に教員の授業力や学級経営力等、教師として身に付けるべき力の向上を図る。	・保護者から高い評価を受けているなか、先生方が多忙のため、及び今年はインフルエンザ等他の要因もあり、思うような活動ができなかったと思う。また、子供たちから給食室へした質問に対して、栄養士さんがきちんと対応しているなど、細かなことにも気遣いされている。 ・教員の仕事量を考えると、あまりにも多すぎる。事務的な仕事やクラブ活動など、先生たちの仕事から分けて欲しいと思う。 ・先生方が熱心に取り組んでいる様子は、外部の者でも感じている。 ・「校内事情により授業を見にいけないこともあった。」というのは現状だと思う。課題は別にあると思う。 ・「定期的なミニ研修会を通して校内OJTを推進し」に賛同する。
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 PTA並びにおやじの会等との連携を深め，地域の教育力を生かした多様な体験活動を実践する。	4：保護者向け学校評価アンケート「学校は，家庭や地域と連携を図って，教育活動の充実を図っている」項目において、「はい」の回答56%以上 3：保護者向け学校評価アンケート「学校は，家庭や地域と連携を図って，教育活動の充実を図っている」項目において、「はい」の回答46%以上56%未満 2：保護者向け学校評価アンケート「学校は，家庭や地域と連携を図って，教育活動の充実を図っている」項目において、「はい」の回答36%以上46%未満 1：保護者向け学校評価アンケート「学校は，家庭や地域と連携を図って，教育活動の充実を図っている」項目において、「はい」の回答36%未満	3	○　夏休みの「わくわくスクール」では学校支援地域本部と連携したが、応募や抽選の仕方で連携がとりずらいことがあった。 ◎　夏休みの「わくわくスクール」では学校支援地域本部と連携し、地域や外部団体の協力を得ながら、体験学習・ものづくり等、多様なニーズに応える活動を行う。 ◎　「おやじの会」と連携し、夏休み講座を開設し、キャリア教育を推進する。	・先生方が多忙のなか、地域の行事に参加して地域との連携を重視してくれている。また、地域の子供たちのスポーツ活動にも理解をしてくれている。 ・保護者が学校に全てをまかせすぎではないかと思う。学校は保護者に対して強く接してもよいのではないかと思う。先生方がPTA活動にもっと接する時間があると良いと思うが、難しいのであろうか。 ・先生方だけではなく、地域の方々とともに児童を育てていくことが大切だと思う。 ・校長先生や副校長先生とは会うことは多いが、他の先生方とはあまり会うことがない。仕事時間外の会合だが、先生方もたまには顔を出した方が良いのではないかと思う。 ・夏休み講座など、「おやじの会」としても協力していきたいと思う。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である